

令和8年産「ゆめかおり」現地検討会を開催

県西地域を中心にパン用小麦「ゆめかおり」を栽培する「茨城パン小麦栽培研究会（以下、研究会）」は、きめ細かな肥培管理により、実需者ニーズに合った高品質な小麦づくりを実践しています。普及センターでは「ゆめかおり」の生産規模の拡大と品質維持に向け、3月13日に研究会と共催で現地検討会を開催し、生産者17名のほか、取引先の製粉会社4社および関係機関等19名の合計36名が参加しました。

普及センターより、令和8年産の生育概況や今後の管理について説明しました。続いて、県農業研究所より、赤かび病の防除方法や令和7年度の試験結果に基づく適切な防除回数や効果の高い農薬などについて、説明がありました。赤かび病については多くの質問があり、生産者の防除意識の高さが伺えました。

その後、(株)クローバー・ファーム（境町）の現地ほ場にて、前作が水稻と畑作のほ場における生育や地下1mの土壌断面の違いを確認しました。近隣のほ場で土壌断面が大きく異なる様子が観察でき、生産者から驚きの声が挙がっていました。

参加した製粉会社から、「研究会の小麦の安定した品質にはいつもお世話になっている。今後もこの品質を維持したまま増産して欲しい」と期待の声を頂き、研究会員の生産意欲も高まりました。

普及センターでは、高品質安定生産を目指して、関係機関と連携し、今後も支援に取り組んでいきます。



令和8年3月23日 坂東地域農業改良普及センター 松井匠（成長産業）